

Mémoire

佐賀大学 芸術地域デザイン学部 学生活動誌 メモア

特集

2022th GECHIDE PROJECTS



TAKE
FREE

まだまだ、知り足りない。

はじめに

「佐賀大学の芸術地域デザイン学部ってどんな学部なの？」
そう聞かれるたびに「いろいろありすぎて分からない」と答えていた。

ひと学年約 120 名という比較的小きな学部でありながら、
専攻分野の幅が広く、他の同級生が今どんな活動をしているの
かよくつかめないままだった。

まずは私たち自身が同じ学部のことを知るために。そして学
部外の方にも、この個性豊かな学生たちの存在が伝わるように。
この冊子は、芸術地域デザイン学部の学生である私たちが、自
ら企画や取材、編集を行った。

タイトルの「メモア」は、「記憶」を意味するフランス語。
単なるプロジェクトや展覧会の情報をまとめたものではなく、
その時にしか得られない学生たちの記憶にフォーカスしたいと
いう思いを込めた。

メモア編集部

CONTENTS

特集 2022th GECHIDE PROJECTS

- 6-7 ももいろとかげ
- 8-9 鳥栖未来計画
- 10-11 佐藤もと
- 12-13 お嬢様部
- 14-15 教授ガチャ
- 16 編集部紹介

2022th GECHIDE PROJECTS

芸術地域デザイン学部、通称「げちで」。
絵画や染色、木工など芸術分野を学べる芸術表現コースと
アートやデザインを通して地域課題に目を向ける地域デザインコースの2つのコースに分かれているこの学部。
学生たちは、制作・研究活動を行いながら毎年様々な分野の展示会やイベント活動を行っている。

前年に引き続き
編集部が選んだプロジェクトの代表者に取材した「2022th GECHIDE PROJECTS」を掲載。
多方面から「げちで」を見つめてみた。

2022th GECHIDE CALENDAR

2022 年度に佐賀大学芸術地域デザイン学部の学生が関わった
展示会やイベント、プロジェクトを見開き1ページにまとめた。

- ・鳥栖未来計画 成果展
- ・1㎡ Store
- ・nano 展

04

05

- ・授業成果展～肥前陶磁器産業体験Ⅳ～
- ・ミクストメディア専攻企画展
- ・グループ展 (1)
- ・芸術地域デザイン学部交流会

06

- ・青に彩 佐賀の彩り 50 人展
- ・ある壁にて

07

- ・ツーバウンスのワンバウンドめ
- ・映像デザインゼミ成果発表展

08

- ・共通基礎成果発表展

09

- ・るつぼ・るーつ・ぼーいず
- ・きいろ展

そこは専門、分野はさまざまに、学生それぞれが得意とする形での「表現の場」が存在する。

- ・ライブアート 温泉街
- ・うるし展

10

11

- ・ 1m² Store
- ・ グループ展 (2)
- ・ 萌展
- ・ 840 Not Formed
- ・ on both of two days 両方の日に

- ・ who imaged
- ・ 卓の上

12

01

- ・ ゼミ展 2023
- ・ 映像デザインゼミ 3 年生成果展 YAMINABE
- ・ かいだん、しかくい、つくる
- ・ 千変万化

- ・ 落書きじゃない楽書き
- ・ spill the beans
- ・ 卒業・修了制作展

02

03

- ・ うい展

新!!モモイロトカゲ

変身って楽しい!!

いつもと違う自分に

出会える場所に



PROFILE

河塚 彩和
Sanari Kawatsuka

出身 福岡県

長所 ムックリ

短所 時間に遅れること

目標 早起き

学部を一言で

好きなことに直向きに取り組める学部だと思います!



開催情報

新!!モモイロトカゲ

芸術地域デザイン学部交流会

期日 2022年5月25日

17:00-20:00

場所 エスプラッツ3Fホール

(佐賀市文化交流プラザ交流センター)



モモイロトカゲとは？

始まりは1987年、今の芸術地域デザイン学部の前の特設美術科(特美)の頃に始まったものです。美術科の中に数人綺麗な顔の男の人がいて、その人を女装させたら面白いかも!と始めたのがきっかけでした。

当時は大学祭でバザーをしていたのですが、普通のバザーでは面白くないので、女装をした男性が店員をして、一風変わったものを作りましたが、それが自然に受け継がれて年中行事になっていきました。

『新!!モモイロトカゲ』は『モモイロトカゲ』を今の時代に合うように、私たちの代で新しい形に作り替えたものです。

モモイロトカゲの由来は？

創設時代の方にお話を聞いたのですが、詳しい名前の由来は分かりませんでした。お話を聞く限り面白い名前にしたかっただけで、特に深い理由はなかったように思います。

どこでモモイロトカゲに出会ったの？

父が特美出身で、思い出話を聞いていたときにモモイロトカゲのことを知りました。話を聞いてみるととても面白く、当時の写真などを見せてもらう中で、もっと詳しく知りたいと思うようになりました。そこで、詳しい歴史を知るために先輩方や創設時代の方、徳安先生、中村先生などに話を聞きにいき、世代によって変わるモモイロトカゲを知ることが出来ました。

コンセプトは？

『モモイロトカゲ』を新しい形で作り直し、地域デザインコースと表現コースの二つをつなぐイベントを作ることです。また、いつもとは違う自分に出会える場所となるよう、「変身は楽しい!」というコンセプトで進めました。

学生のみで運営したの？

はい、運営メンバーで協力して全て行いました。Twitterで呼びかけたり、知り合いのツテを探ってモデルをスカウトしたり、様々な方法で協力してくれる人を集めました。コロナの影響で学内が使えないため場所探しが一番難航しましたが、いろいろな人に話を聞きにいき、ギリギリで開催できる形に持っていきました。

ファッションショーの形を取ったのはなぜ？

以前のモモイロトカゲを今の時代に合うように作り直し、なおかつ「変身は楽しい!!」ということが一番伝わりやすい形は何かと考えた結果、ファッションショーという形になりました。

今後はどうしていきたい？

今後は芸術地域デザイン学部の交流を目的としたイベントだけでなく、学部を超えて純粋に変身を楽しむイベントも作っていきたいです。

企画・ライター・カメラマン・デザイン
轟木 祐衣

鳥栖未来計画

前例のない都市計画の提案

鳥栖未来計画のこれまでと、

それから



PROFILE

高桑 正誠
Masanobu Takakuwa

出身 福岡県
長所 深い思考力と洞察力
短所 いつも眠い
目標 アーバンデザイン博士
学部を一言で カオス

小澤 健
Takeru Ozawa

出身 福岡県
長所 デザイン愛が強い
短所 常に金欠なこと
目標 デザインで長く食べていくこと
学部を一言で 一瞬で4年が過ぎてしまいます。

いろいろなデザイン

佐賀大学芸術地域デザイン学部は、学部の名のとおり芸術と地域のデザインを学ぶ場所である。“芸術の力で地域をデザインしたい”そんな壮大な理想を抱きつつ、各々が専門領域だけでなく多様なデザインに触れている。

今回お話を伺った「鳥栖未来計画」のメンバーは、都市デザインと、視覚伝達デザイン、キュレーションという異なる分野のデザインの力を合わせ、佐賀県鳥栖市という一つのまちのデザインに挑んでいる。

鳥栖未来計画の活動内容は？

学生は、鳥栖市市議会からの依頼により、鳥栖市中心市街地の再開発についての提案を行っている。市街地の中でも特に、鳥栖駅周辺の新たな土地利用の可能性について、鳥栖市民に知ってもらうことが目標である。

この計画の大きな特徴は、年単位での長期にわたる活動であること。都市デザインの世界では、数ヶ月単位で活動することが多いが、本計画では腰を据えて鳥栖市の課題とじっくり向き合うことができている。

これだけの期間、一つのまちという大きなフィールドを舞台にした活動に向き合えるのも、「鳥栖」というまちへの想い入れがあつてこそ。代表の一人で、グラフィックデザインを担当する小澤健さんは鳥栖市の出身である。自分の住むまちだからこそ、自分ごととして本気で取り組んでいるという。そして同じく代表で、都市計画提案を担う高桑正誠さんは、祖父母が鳥栖で暮らしていたり、父親も鳥栖出身であったりと、家族ぐるみで鳥栖との関わりが深い。

自分にゆかりのあるまちで、これまででない規模の都市計画ができるということは、活動の原動力となっている。



左:高桑さん 右:小澤さん

文化と交通の拠点としての鳥栖駅

鳥栖未来計画では、鳥栖市内でも歴史ある建物で、かつ現在も利用され続けている鳥栖駅の活用が重要なテーマとなっている。

鳥栖駅は、文化財として価値ある駅である一方、市民が利用するにあたってはいくつかの課題を抱えている。

例えば、東口はあるが西口がなく駅前不動産スタジオへのアクセスがよくないこと。エスカレーターがなく、バリアフリーに課題があること。このような市民が感じている困りごとを解決する案として、新駅舎の設置と、現駅舎のコミュニティスペース兼バス待機場としての活用を提案している。

駅の周りを駅ビルで囲むという発想ではなく、既存の市街地を活性化させるために鳥栖駅を活用する。鳥栖市全体をデザインするにあたって、鳥栖駅と同時に市街地にも目を向けているのである。

計画を市民に伝えるために

都市計画を練るだけでなく、それを市民に伝えるまでを考えるにあたっては、グラフィックデザインやキュレーションの力を使っている。

都市の様子を視覚的にわかりやすく伝えるにはどうすればいいかを考えた結果、まちのイメージを掴んでもらうための模型製作が始まった。

佐賀大deラボという、3Dプリンターが利用できる施設にて、鳥栖市中心市街地の3Dモデルを製作。建物の数は200以上に及び、業務用プリンター3台をフル稼働させた。出力された模型を図面通りに並べるのには労力を使ったが、納得のいく完成度の高いモデルを作ることができた。

また平面のデザインとしては、パネルやポスターのデザインがある。確かなデザインスキルと目を引く独創性が求められる中で、小澤さんのデザインはフォントや色調にもこだわりを感じさせる。佐賀大学美術館や鳥栖市のフレスポ鳥栖で実施された成果展示では、キュレーション分野ならではの美術館での作品展示の手法も生かされ、多くの人に伝わるデザインを実践している。

都市計画と、これからの鳥栖市

都市計画は、順調にことが進んでも実現に30年かかる。計画するにあたって実現可能性を考慮する必要もあり、提案にリアリティを持たせていかなくてはならない。

鳥栖未来計画では、市民に対して鳥栖市の新しいかたちを知ってもらうだけでなく、自分ごととして行動を起こしてもらうことが大きな目標となっている。

市民が鳥栖市の未来に可能性を感じられるように。これからも、計画は続いていく。

企画 白石 資陽 ライター 青木 結依加
カメラマン 小山 聖月 デザイン 小野 瑞佳

佐藤もと

PROFILE

佐藤 もと
Moto Satou

出身 福岡県

長所 さまざまなことに興味を持って、
取り組める好奇心を持っているところ。

目標

まだはっきりとした将来の夢はないが、個人的な活動を沢山行いたい。他にも、最近学校の授業を通してキュレーターの仕事に興味があり、その世界に進むかも。

中学3年生の頃から「Long dis」としてYouTube活動を開始。

「ロンちゃん」の愛称で親しまれている。

現在はYouTube以外のSNSにも取り組んでいる。



YouTube で発信する

" 想いを込めた動画 " が、

新たな「好き」を生み出していく



動画投稿を始めたきっかけは？

YouTube 活動を始める前から YouTube を見るのが好きで、特にメイクや Vlog 動画を多く視聴していました。「自分でもできるかもしれない」と思ったことがきっかけで、中学3年生の頃に活動を開始しました。動画の内容は主に、自分の日常などがほとんどです。

動画投稿をしていて一番嬉しかったことは？

動画投稿をしていて一番嬉しかったことは「ロンちゃんのおかげで変わることができました」というコメントを見つけた時です。自分の動画で、誰かに良い

影響を与えることができていますんだと知ることができました。

他にも、コンプレックスを生かしたメイク動画に対して「好きです」のような前向きで素敵なコメントを多くもらい、自分のコンプレックスだったところを好きになるきっかけとなりました。

動画を作る際に大切にしていることは？

『私だけにしかできない世界を作る』ということ大切に、こだわりを持って作っています。最近は新たなチャレンジとして、もっと自分の考えていることを題材にした動画を作っていこうと考えています。これまではメ

イクやファッションなど表面的な部分でしか自分を動画で見せてきませんでしたが、今後は自分の考えなど、内面的なところを伝えることで自分をよりよく知ってもらおうと挑んでいます。

『ROKU』というキャンドルを作ったきっかけは？

ある日の動画に、長崎の女子高生から「規格外野菜」を使った商品と一緒に作りませんか」とコメントがあり、詳しく話を聞いたところ、形が変わったものや、糖度が足りない为由で廃棄されている「規格外野菜」の存在を初めて知りました。廃棄されるといっても、実際はまだ食べられるものも多く、捨てるには勿体無いものばかりで、



どうしたら規格外野菜を商品として生かすことができるかについて沢山話し合いして出来上がったのが、『ROKU』というキャンドルです。

エッセンシャルオイルを取り出して作ったとても質の良いもので、たくさんの方が購入し嬉しいことに現在は完売中です。しかしまた、冬に制作・販売していきたいと思っています。

『ROKU』という名前の由来は？

『ROKU』は、「大地の恵みを全て使って心豊かな暮らしを」コンセプトとしています。名前の由来は、佐藤さんの「もと」という名前とコメントをくれ



た女子高生「ふみ」さんの名前を合わせると「ふもと」と読めることに気づいたところから来ています。「ふもと」と聞いて山の「ふもと」を連想し、それを漢字にすると山の「麓」。コンセプトの大地の恵みにもあっている、麓の呼び方を音読みにしたらもっと良いのではということで、音読みでロク→ROKUに決まりました。

また、このキャンドルは売ることが本当の目的ではありません。廃棄されるものについて知ってもらい、商品を購入して終わりにせず、購入した商品がその後どう自分達の暮らしとつながっていくのか、購入者に考えてもらうことを狙っています。

企画 桶本 優
ライター 青木 美玖
デザイン 高原 真愛

お嬢様部



「何か楽しそうなことをしてるな」

と思われるような存在でいたい



『佐賀大学お嬢様部』の部長さん▶

活動内容 お茶会
 主な活動は週に1回程度、部長さんの自宅で開催されるお茶会。紅茶を嗜みながら「～ですわ」「～じゃなくてよ」のような「お嬢様言葉」で会話を楽しんでいる。そんな部長さんのおすすめの紅茶は『LUPICIA』のキャラメル&ラムだそう。



『佐賀大学お嬢様部』の誕生
 今回、『佐賀大学お嬢様部』の部長さんにお話を伺った。
 『佐賀大学お嬢様部』は2022年1月に3人の学生がTwitterアカウントを開設したことから始まった。
 熊本大学お嬢様部のツイートがタイムラインに流れてきたことで興味を持ち、面白そうだなと思ったことがきっかけだ。
 今では芸術地域デザイン学部、農学部、理工学部といった様々な学部の1～3年生の学生17人がお嬢様部に所属している。

さまざまなことに好奇心旺盛なお嬢様たち
 『佐賀大学お嬢様部』は基本「思いつき」で活動をする。
 取材をした日は、部員4人で「1日ヴィーガンチャレンジ」を行っていた。
 肉や魚、卵や乳製品など動物性のものを一切食べない「ヴィーガンチャレンジ」が面白そうと思い実行。スターバックスに行っても生クリームではなく、アーモンドミルクにカスタムして注文したり、ヴィーガンに配慮した商品を購入したりした。
 今後は「ブラックバス釣り」にも挑戦してみたいと考えている。

「優雅なゴミ拾い」で一躍有名に
 そんなお嬢様部を一躍有名にさせたのが、暴走族の集会後に行った「優雅なゴミ拾い」だ。ある日、バイト帰りに帰宅していると暴走族と見物客を見かけた部長さん。
 地面には多くのゴミが散乱しており「これはひどいですわ!」と思ったことがキッカケとなり、Twitterで「ゴミ拾い」を呼びかけ、部員と共にゴミ拾いを行った。
 その行動にTwitter上で多くの反応が寄せられ、メディア取材が殺到。
 お嬢様部の認知度が急上昇した。
 有名になったことで、部長さんが中学生の頃から聴いていた「ボカロP」にフォローされるなど、思わぬ嬉しいことも舞い降りた。

「楽しそう」と思われる存在でありたい
 佐賀大学の中でお嬢様部が「何か楽しそうなことをしているな」と思われるような存在でいたいと部長さんは話す。
 今後のお嬢様部の活動にどんな楽しいことが待っているのか注目していきたい。

企画 中川 心琴
 ライター 溝口 愛望
 カメラマン 木原 有花里
 デザイン 小野 瑞佳

教授ガチャ 教授を " ガチャガチャ " にしたら人気商品になった！



N-project

佐賀大学芸術地域デザイン学部で映像デザインを教える中村先生ご指導のもと活動している団体。

意義：活動主体は生徒自身、個人でアイデアを形にしていること

中村先生のゼミ活動として主に行っているコンテンツ制作の取り組みを、ゼミに所属していない学生にも体験してもらうことを目的として作られており、学部や学年問わず参加することができる。



左：小野さん 右：杉山さん

『教授ガチャ』とは？

2022年10月に佐賀大学本庄キャンパスで開催された佐賀大学大学祭で瞬間に完売となった商品。企画は、『N-project』所属の1年生・小野さんが行いました。

『教授ガチャ』制作のきっかけは？

コロナ禍で、教授に直接会う機会が減り、教授の顔を知らない方が多いということがありました。そこで教授の皆さんを知ってもらうと同時に、芸術地域デザイン学部で使われ

る最新機器の紹介をしたいという想いから生まれたのが教授ガチャです。

3Dプリンターという最新機器を使って教授のフィギュアを作ること、フィギュアの作り方の話から学部の最新機器のことまで説明することができ、加えてフィギュアから教授のことを知ってもらえる。このような企画の狙いをたて、佐賀大学祭にて実際に販売を行いました。

『N-project』の今後の活動について教えてください

『N-project』では、『教授ガチャ』のようにメンバーがふと作りたいと思ったものを形にしていき、企画として完成させています。企画を通して最新の機械に触れることができるのが、この団体の良さだと感じています。

今後の目標は、団体のみんなが、自分達のやりたいことを企画としてしっかりと実現していくことです。



企画 桶本 優 ライター 青木 美玖
カメラマン 畠山 志穂 デザイン 高原 真愛

編集部紹介

新たにメンバーを迎えた編集部。低学年も大いに活躍しています。
そんなメモア編集部メンバーたちから一言ずついただきました！

企画

- 読んでくださり、ありがとうございます！白石 資陽
- 真相究明!! 桶本 優

ライター

- 取材をしていくと、今まで知らなかった学部の新しい面を見ることができ楽しかったです。青木 美玖
- 取材をすることが初めてで楽しかったです！溝口 愛望

カメラマン

- 活動の楽しい様子や作品の素晴らしさを伝えることができる写真を撮れるように頑張っています！畠山 志穂
- カメラマンとして取材に同行し、げちでの方がどんな活動をしているのかを知ることができ、刺激を受けました。小山 聖月
- 様々な方の表情を楽しみながら撮らせて頂いています。木原 有花里

デザイナー

- メモアの活動を通じて佐大の学生さんたちの活動を知ること、私自身もとても刺激を受けました。
春からは社会人として頑張ります！小野 瑞佳
- 慣れないところも頑張ります！高原 真愛
- 『げちで』は楽しい場だと伝わると嬉しいです。轟木 祐衣

編集

- 卒業してからも、現役生と交流し学生のさまざまな活躍を知れることを嬉しく思います。村上 茜

その他編集部を支えてくれたメンバー

中川 心琴
青木 結依加

Mémoire

佐賀大学芸術地域デザイン学部学生活動誌メモア vol.3

発行 メモア編集部 (Email) memoire.saga@gmail.com

発効日 2023年4月1日

後援 株式会社ハイブリッドファクトリー
株式会社丸宗

EDITORS SAGA 

佐賀を編集するウェブマガジン

Mémoire Web版は、佐賀を編集するウェブマガジン
「EDITORS SAGA」にて掲載中です。

最新記事はこちらをチェック→

